

# ビアズレーとワイルド

## ——『サロメ』をめぐって——

日時 2021年8月7日13時

場所 うつのみや妖精ミュージアム

講師 井村君江（用紙美術館名誉長）

(1) オーブリー・ビアズレー (Aubley Beardsley 1872 -1898)

オスカー・ワイルド (Oscar Wilde 1854 -1900)

\*2人が出会ったのは1891年夏、絵描きバーン・ジョーンズの家で、絵画帖を見せに行った時。

姉で女優のメイベルとお茶に来ていたワイルド夫妻と会う。帰途、ワイルドの馬車と一緒に乗る。

\*ブライトン・グラマー・スクールからウエストミンスター美術校。「違った生きもの」になった。

父親から肺病。デカダン、グロテスク、エロティック、奇怪趣味。ブライトンの三角の家。

(2) 『サロメ』

ワイルドはフランス語で1891年に執筆。ヘブライ語 (Shalome —「平和」) をもとにした名前。

\*古本屋ジョーンズ&エヴァンズは友人デントにビアズレーの絵を見せ、「アーサー王の死」依頼する。

頁画、装飾画、挿絵等550枚を1年半かけて完成。自由な画風、浪漫、風刺性、幻想性、怪奇。

1893年美術雑誌「ステューディオ」に「新しい挿絵画家オーブリー・ビアズレー」の挿絵。

\*お前の口に接吻したよ」、ロバート・ロスがワイルドにインクついた絵画をみせる。

ワイルド「サロメ」の挿絵依頼。「君の絵は日本的だ。僕のサロメはビザンティンなのに」。

\*聖書「マタイ伝」14章 (3-19) 「マルコ伝」6章 (19-24) ヨゼーフォース「古代ユダヤ史」。

風刺的、お月さまの顔をワイルドの顔に。「サロメ」をフローベルに、時代錯誤。

英訳アルフレッド・ダグラス、ビアズレー不可。ワイルド「ビアズレーは僕が作った」。

\*ワイルド同性愛の罪で逮捕。黄色本を持っていた。しかし、雑誌「イエローブック」(編集)ではない。

\*母親ヘロディアの命令でなく、ワイルドのサロメは自分の意思でヨカナーンに口付け求める。

\*初め派手な取り巻き後年反目する。ワイルドは「レディング監獄」挿絵依頼、拒否さる。

(3) 晩年

\*ビアズレーは、嗜血しながら、ホイッスラー、モリス、ロートレック、浮世絵等を学ぶ。

ドイツはミュンヘン、ベルリンを訪問しワグナーのタンホイザーを基に「ヴィーナスとタンホイザー」の挿絵を描く。帰国後、健康と経済は悪化「肘鉄とすげない扱ひ」の英国より他の国のほうが良いとフランスへ。

\*ラントンで母親と姉看病、家族が部屋出たすきに、愛用の描画用金ペンを取ろうとして病死25歳。

ワイルドもフランスのパリ、ダルザスホテルにて主人に看取られイギリスの友人無く死去46歳。

(4) ヴィクトリアズム

\*中産階級の理想の価値観「勤勉、禁欲、貞淑、節制、忍耐」に、ワイルドとビアズレーは反対。

\*マックス・ビアボン (友人宛)「挿絵が本文になっている劇だ。(中略)非常に美しいもの、素晴らしいものがある。なぜオスカー・ワイルドが劇にしないか不思議なくらいだ」。